コーポレートガバナンス

CORPORATE GOVERNANCE　　TEIKOKU SEN-I Co.,Ltd.

最終更新日：2015年3月31日
帝国繊維株式会社
代表取締役会長 飯田 時章
問合せ先：取締役経営企画部長 阪田 繁
証券コード：3302
http://www.teisen.co.jp

当社のコーポレート・ガバナンスの状況は以下のとおりです。

Ⅰ コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方及び資本構成、企業属性その他の基本情報

1. 基本的な考え方

当社グループは、創業時から受けつがれた「社会の安全、生活文化の向上に貢献する企業」を基本理念とし、環境の変化に迅速に対応できる経営体制の構築・維持を経営上の重要な課題としており、株主をはじめとするステークホールダーの権利・利益を尊重し、法令・倫理の遵守、経営の透明性の向上、経営監督機能の強化など、コーポレート・ガバナンスの充実が持続的に企業価値を高めることに繋がるとの基本認識のもと、取締役会・監査役会ともども、その役割を果たしてまいる所存です。

2. 資本構成

外国人株式保有比率	10%以上20%未満

【大株主の状況】更新

氏名又は名称	所有株式数（株）	割合（%）
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	1,587,000	5.85
株式会社みずほ銀行	1,295,547	4.78
丸紅株式会社	1,200,000	4.42
明治安田生命保険相互会社	1,000,000	3.69
ヒューリック株式会社	936,637	3.45
西松建設株式会社	800,000	2.95
ビービーエイチ　フイデリテイ　ピユーリタン　フイデリテイ　シリーズ　イントリンシツク　オポチユニテイズ　フアンド　（常任代理人　株式会社三菱東京UFJ銀行）	800,000	2.95
株式会社モリタホールディングス	790,000	2.91
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	715,200	2.64
みずほ信託銀行株式会社	598,000	2.20

支配株主（親会社を除く）の有無	―――
親会社の有無	なし

補足説明

―――

3. 企業属性

上場取引所及び市場区分	東京 第一部
決算期	12 月
業種	繊維製品
直前事業年度末における（連結）従業員数	100人以上500人未満
直前事業年度における（連結）売上高	100億円以上1000億円未満
直前事業年度末における連結子会社数	10社未満

4. 支配株主との取引等を行う際における少数株主の保護の方策に関する指針

―――

5. その他コーポレート・ガバナンスに重要な影響を与えうる特別な事情

Ⅱ 経営上の意思決定、執行及び監督に係る経営管理組織その他のコーポレート・ガバナンス体制の状況

1. 機関構成・組織運営等に係る事項

組織形態	監査役設置会社

【取締役関係】

定款上の取締役の員数	17 名
定款上の取締役の任期	2 年
取締役会の議長	会長（社長を兼任している場合を除く）
取締役の人数 更新	9 名
社外取締役の選任状況	選任している
社外取締役の人数 更新	1 名
社外取締役のうち独立役員に指定されている人数 更新	1 名

会社との関係(1) 更新

氏名	属性	会社との関係(※)										
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k
高木裕康	弁護士											

※ 会社との関係についての選択項目
※ 本人が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「○」、「過去」に該当している場合は「△」
※ 近親者が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「●」、「過去」に該当している場合は「▲」

a 上場会社又はその子会社の業務執行者
b 上場会社の親会社の業務執行者又は非業務執行取締役
c 上場会社の兄弟会社の業務執行者
d 上場会社を主要な取引先とする者又はその業務執行者
e 上場会社の主要な取引先又はその業務執行者
f 上場会社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家、法律専門家
g 上場会社の主要株主（当該主要株主が法人である場合には、当該法人の業務執行者）
h 上場会社の取引先（d、e及びfのいずれにも該当しないもの）の業務執行者（本人のみ）
i 社外役員の相互就任の関係にある先の業務執行者（本人のみ）
j 上場会社が寄付を行っている先の業務執行者（本人のみ）
k その他

会社との関係(2) 更新

氏名	独立役員	適合項目に関する補足説明	選任の理由
高木裕康	○	―――	高木氏を社外取締役とした理由は、弁護士として幅広いかつ専門的な見識を有しており、当社の社外取締役としての職務を適切に遂行いただけると判断したことによります。また、東京証券取引所が定めている独立役員の独立性に関する判断基準のいずれにも該当しておらず、一般株主と利益相反が生じるおそれがないことから、同氏を独立役員として指定いたします。

指名委員会又は報酬委員会に相当する任意の委員会の有無	なし

【監査役関係】

監査役会の設置の有無	設置している
定款上の監査役の員数	4 名
監査役の人数	3 名

監査役、会計監査人、内部監査部門の連携状況 更新

監査役監査:
取締役会には毎回出席し、必要に応じて意見を述べるとともに、常勤監査役は社内の主要な会議に出席するなど、経営に対する監視、業務執行に関する監査機能を果しています。具体的な監査の執行にあたっては、毎年3月に立案した監査計画に従い、監査対象ごとに、必要に応じ、業務・品質監理室のスタッフを補助者としてデータ収集など補助的な作業を指示、厳格な監査役監査が行われております。

会計監査:
当社は、新日本有限責任監査法人と監査契約を締結し、会社法および金融商品取引法に基づく会計監査を受けております。また、会計監査人の監査報告会には監査役も出席し直接報告を受けるとともに、意見を述べるなどの連携を図っております。
当社の会計監査業務を執行する公認会計士の氏名および所属する監査法人名等は以下の通りです。
　新日本有限責任監査法人 指定有限責任社員業務執行社員 布施木孝叔（継続監査年数5年）
　新日本有限責任監査法人 指定有限責任社員業務執行社員 飯畑　史朗（継続監査年数6年）
　新日本有限責任監査法人 指定有限責任社員業務執行社員 千足　幸男（継続監査年数2年）
また、当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士8名、その他8名であります。

内部監査:
「業務・品質監理室」を中心に、職務分掌に基づくセルフ・アセスメントを基礎としたチェック体制を構築しております。具体的には、毎月、営業他各部の決められた22名の担当者を中心に、前月の支払帳票などについて、所定の監査項目を自らがチェックし、その結果を、所定の様式に従い業務・品質監理室に報告し、同室がその結果について監査を行うほか、必要に応じ、監査役・会計監査人とも連携して、内部監査の精度の向上と厳格な実施に努めております。また、その実施状況につきましては、取締役会に報告し、問題があれば、必要な措置をとる体制を構築しております。
「業務・品質監理室」は室長のほか内部監査グループ2名、品質管理グループ2名に加え、顧問公認会計士1名で構成され、当社グループの内部監査業務のほか、ISO9001品質システムの整備・運用、取扱製品の品質管理など、グループ会社を含めた企業活動に係る品質管理を統括する部署として、活動しております。

監査役監査、会計監査および内部監査は、日常的に意見・情報交換を通して相互に連携しており、これらの監査の結果に基づき、内部統制部門は業務の改善に取り組んでおります。

社外監査役の選任状況	選任している
社外監査役の人数	2 名
社外監査役のうち独立役員に指定されている人数	1 名

会社との関係(1)

氏名	属性	会社との関係(※)											
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m
西浦　三郎	他の会社の出身者													
角　秀洋	他の会社の出身者													

※　会社との関係についての選択項目
※　本人が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「○」、「過去」に該当している場合は「△」
※　近親者が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「●」、「過去」に該当している場合は「▲」
a　上場会社又はその子会社の業務執行者
b　上場会社又はその子会社の非業務執行取締役又は会計参与
c　上場会社の親会社の業務執行者又は非業務執行取締役
d　上場会社の親会社の監査役
e　上場会社の兄弟会社の業務執行者
f　上場会社を主要な取引先とする者又はその業務執行者
g　上場会社の主要な取引先又はその業務執行者
h　上場会社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家、法律専門家
i　上場会社の主要株主（当該主要株主が法人である場合には、当該法人の業務執行者）
j　上場会社の取引先（f、g及びhのいずれにも該当しないもの）の業務執行者（本人のみ）
k　社外役員の相互就任の関係にある先の業務執行者（本人のみ）
l　上場会社が寄付を行っている先の業務執行者（本人のみ）
m　その他

会社との関係(2) 更新

氏名	独立	適合項目に関する補足説明	選任の理由

	役員		
西浦　三郎		―――	西浦氏を社外監査役とした理由は、現役の経営者として高い見識と幅広い経験を有しており、当社の社外監査役としての職務を適切に遂行いただけると判断したことによります。
角　秀洋	○	―――	角氏を社外監査役とした理由は、現役の経営者として高い見識と幅広い経験を有しており、当社の社外監査役としての職務を適切に遂行いただけると判断したことによります。また、東京証券取引所が定めている独立役員の独立性に関する判断基準のいずれにも該当しておらず、一般株主と利益相反が生じるおそれがないことから、同氏を独立役員として指定いたします。

【独立役員関係】

独立役員の人数 更新	2 名

その他独立役員に関する事項

独立役員の資格を充たす者を全て独立役員に指定しております。

【インセンティブ関係】

取締役へのインセンティブ付与に関する施策の実施状況	ストックオプション制度の導入

該当項目に関する補足説明

取締役の報酬と当社の業績および株主利益の連動性を一層高めることを目的とし、各事業年度末時点の当社取締役に対し、株式報酬型ストック・オプションを割り当てております。

ストックオプションの付与対象者	社内取締役

該当項目に関する補足説明 更新

【第1回新株予約権（株式報酬型）】
決議年月日　　平成25年3月28日（取締役会決議）
付与対象者　　平成24年度末時点の当社取締役9名
新株予約権の
目的となる株式の種類　　当社普通株式
株式の数　　95,000株
役員の保有状況　　7名、83,000株

【第2回新株予約権（株式報酬型）】
決議年月日　　平成26年3月27日（取締役会決議）
付与対象者　　平成25年度末時点の当社取締役7名
新株予約権の
目的となる株式の種類　　当社普通株式
株式の数　　88,000株
役員の保有状況　　7名、88,000株

【第3回新株予約権（株式報酬型）】
決議年月日　　平成27年3月26日（取締役会決議）
付与対象者　　平成26年度末時点の当社取締役7名
新株予約権の
目的となる株式の種類　　当社普通株式
株式の数　　91,000株
役員の保有状況　　7名、91,000株

【取締役報酬関係】

（個別の取締役報酬の）開示状況 更新	一部のものだけ個別開示

該当項目に関する補足説明 更新

平成26年度取締役　支給人員7名　　支給額354,830千円

上記のうち報酬等の総額が1億円以上である者　　飯田　時章　　支給額121,800千円

報酬の額又はその算定方法の決定方針の有無	なし

報酬の額又はその算定方法の決定方針の開示内容

―――

【社外取締役（社外監査役）のサポート体制】

社内の主要会議への出席依頼のほか、経営資料の配布により常に最新の情報を共有するよう努めております。

2. 業務執行、監査・監督、指名、報酬決定等の機能に係る事項（現状のコーポレート・ガバナンス体制の概要）更新

当社は、取締役会と監査役会を設置しております。

取締役会：提出日現在、社外取締役1名（非常勤）を含む取締役9名で構成されており、年7回開催され、重要案件の決議、業績の状況報告など業務執行の監督を行っております。また、営業担当役員を中心に業務執行を統括する「経営会議」を毎月開催し、環境変化に即応した迅速な業務執行に努めております。その他連結会社を含めた「役員・部長連絡会」と本社の役員・部長で構成される「幹部会」を週1回開催するなど、意思決定の迅速化と情報や課題の共有化に努めております。

監査役会：提出日現在、社外監査役2名（非常勤）を含む監査役3名で構成され、年11回開催しております。社外監査役には、経営者として豊富な経験を有する人物を選任し、取締役会には社外監査役を含めた3名全員が出席することで、取締役会の意思決定の妥当性・適正性などの観点から経営に関する監視・監査等の機能を果たしております。

3. 現状のコーポレート・ガバナンス体制を選択している理由更新

当社の企業規模勘案、ガバナンスの有効性を十分確保するという観点からは、上記の企業統治体制のもとで迅速な意思決定と的確な業務執行が行われており、経営監視体制も十分機能していると考えております。
これまで当社は、当社事業に係る深い理解・専門知識・長年の経験など、その事業に精通した取締役が一丸となって経営にあたることが、経営の適正と効率を高め企業価値の向上に資するものと考え、社外取締役を選任しておりませんでしたが、昨今の会社法改正をはじめとするコーポレート・ガバナンス強化の観点から、このたび社外取締役を1名選任いたしております。

Ⅲ 株主その他の利害関係者に関する施策の実施状況

1. 株主総会の活性化及び議決権行使の円滑化に向けての取組み状況 更新

	補足説明
株主総会招集通知の早期発送	発送日；3月6日（金）
集中日を回避した株主総会の設定	集中日；　　3月27日（金） 当社株主総会開催日；3月26日（木）
その他	発送日当日に、当社ホームページへの招集通知の掲載

2. IRに関する活動状況

	補足説明	代表者自身による説明の有無
IR資料のホームページ掲載	IR 資料につきましては、当社ホームページに、「IR 情報」の欄を設け、事業報告書、年次報告書、決算短信、適時開示・その他のニュースリリースなどを掲載しているほか、トップページには、「新着情報」として、当社並びに当社製品など当社に係る最新のニュースを都度掲載しております。 より豊富な情報をタイムリーに投資家の皆様にお届けするよう努めております。	
IRに関する部署（担当者）の設置	IR担当部署：経営企画部 IR担当役員・IR事務連絡責任者：取締役経営企画部長 阪田 繁	

3. ステークホルダーの立場の尊重に係る取組み状況

	補足説明
環境保全活動、CSR活動等の実施	環境保全活動につきましては、「チャレンジ25」運動への参加などを通じて、グループ各社で、室内温度、節電など都度独自のエコキャンペーンを行っています。 また、鹿沼工場では平成23年6月に「ISO14001」を取得、その環境方針に基づき環境に関連する法規制を遵守し、継続的に省資源・省エネルギー・リサイクルに取り組むことで、環境保全と汚染の防止低減に取り組んでおります。 産業廃棄物の処理につきましても、ダンボール・金属等は分別集荷により資源回収業者に、一般の廃棄物は特定業者にてサーマルリサイクルを実施しており、工場内の焼却炉は一切使用しておりません。 原材料につきましては、ウレタンチューブ屑を100%ペレット化して再利用しているほか、ペットボトルリサイクル経糸を使用したエコホース製品の開発など、環境にやさしい製品の開発にも力を入れております。 なお、環境対応型高効率ボイラーの更新など、石油エネルギーの一層の高効率な利用と環境負荷の低減も促進しております。

Ⅳ内部統制システム等に関する事項

1. 内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況

内部統制システムの整備・推進については、その基本方針を平成18年5月開催の取締役会で決議しており、リスク管理委員会・コンプライアンス委員会を2ヶ月に1度開催し、その運用の適正化を図るとともに、原則毎月開催している内部統制委員会を中心に、財務報告の信頼性確保に向けての諸施策を推進しております。また、法令・定款の遵守、企業倫理の確立と経営の健全化に向けて、各種規程の改定を行っており、法律および会社ルールの遵守を求めた「企業行動憲章」やコンプライアンス・マニュアルを制定するなどコンプライアンス意識の徹底・浸透にも努めております。

想定されるリスクとその対応については、「リスク管理規程」に基づき、月ごとに経営企画部が中心となって関係各部署から各種のリスク関連情報を収集、2ヶ月に1度開催している「リスク管理委員会」での報告・検討も併せ、迅速かつ的確な対応が出来る体制をとっております。また、内部通報制度「テイセン・ダイレクトライン」を設け、社内への周知徹底を図っているほか、稟議規程に定められた報告制度により、連結会社を含めた各種のリスク情報を早期に吸い上げる仕組みを構築しております。その他、週1回開催される「役員・部長連絡会」と「幹部会」を通じて、各種リスク情報の共有化とリスク対応に係る迅速な意思決定を図っております。

また、内部統制システム整備の基本方針につきまして、その内容は、下記のとおりです。

【内部統制システム整備の基本方針】

(1) 取締役ならびに使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制
コンプライアンスについては、企業の社会的責任を果たすとともに、法令・定款を遵守し、企業倫理の確立と経営の健全化の確保に努めることを基本とし、法令等遵守を統括する組織として社長を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置する。また、内部統制の実施状況を検証するため、内部監査室は内部監査規程に基づいて内部監査を行い、その結果をコンプライアンス委員会および監査役会に報告する。

(2) 取締役の職務の執行に係わる情報の保存および管理に関する体制
取締役は、職務執行に係わる情報を文書で保存し、文書の保存期間その他の管理体制については、「文書管理規程」によるものとする。

(3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
当社グループ全体のリスク管理体制を確立するため、「リスク管理規程」のほか有事の対応を定めた諸規程を整備する。また、当社の各業務を担当する取締役は、自己の担当領域について、グループ全体のリスク管理の体制を構築する権限と責任を有する。また、コンプライアンス担当取締役は、これらを横断的に統括、管理する。

(4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
代表取締役は、営業担当取締役を中心に構成される経営会議および取締役会を通じて月次業績のレビューと改善策の実施など、各取締役の業務執行の効率的運営と監視体制の整備を行う。

(5) 当社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
1. グループ各社の業務の適正を確保するため、当社グループ「企業行動憲章」の、グループ全体への浸透を図る。
2. 併せて、グループ全体を対象としたリスク管理規程、コンプライアンス規程、職務権限規程、文書管理規程、情報セキュリティ管理規程その他の業務の適正化のための規程ならびに内部牽制システム等の整備を行う。

(6) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項ならびにその使用人の取締役からの独立性に関する事項
監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合には、監査役の職務を補助すべき使用人を配置する。また、監査役より業務監査に必要な命令を受けた使用人はその命令に関して、取締役、内部監査室長等の指揮命令を受けないものとする。

(7) 取締役および使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制
取締役および使用人は、監査役会に下記の事項につき報告することとする。
1. コンプライアンスに反する事項
2. 各部門の業務執行ならびに経営状況に係わる重要な事項
3. 会社に著しい損害を及ぼす恐れのある事項
4. 内部監査の状況およびリスク管理に関する状況

(8) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
監査役会は必要に応じ、独自に顧問弁護士を委嘱し、また、より専門性の高い事項については、専門家から助言を受ける機会を保障されるものとする。

(9) 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方
当社は、反社会的勢力との関係を一切遮断することを目的とし、反社会的勢力への対応を所管する部署を経営企画部と定めるとともに、反社会的勢力排除のための社内体制の整備強化を推進し、反社会的勢力には警察等関連機関とも連携し毅然と対応していく。

(10) 財務報告の信頼性を確保するための体制
当社グループは、金融商品取引法に基づく内部統制報告制度への対応を、企業基盤強化のインフラ整備の一環として位置づけ、組織の業務全体に係わる財務情報を集約したものである財務報告の信頼性を確保するために、当該財務報告に係わる内部統制の有効かつ効率的な整備・運用及び評価を行うものとする。

2. 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

「内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況」にも記載したとおり、当社は、反社会的勢力との関係を一切遮断することを目的とし、反社会的勢力への対応を所管する部署を経営企画部と定めるとともに、反社会的勢力排除のための社内体制の整備強化を推進し、反社会的勢力には警察等関連機関とも連携し毅然と対応してまいります。
反社会的勢力との関係遮断を実践するため、対応部署・応対要領等を「対応ルール」の中で別途定めており、コンプライアンスの勉強会等を通じ、社員への周知徹底を図っております。
また、東京都の暴排条例の施行を機に、売買基本契約書ひな型等への暴排条項の追加を実施し、努力義務を果たすべく取り組んでおります。

Vその他

1. 買収防衛策の導入の有無

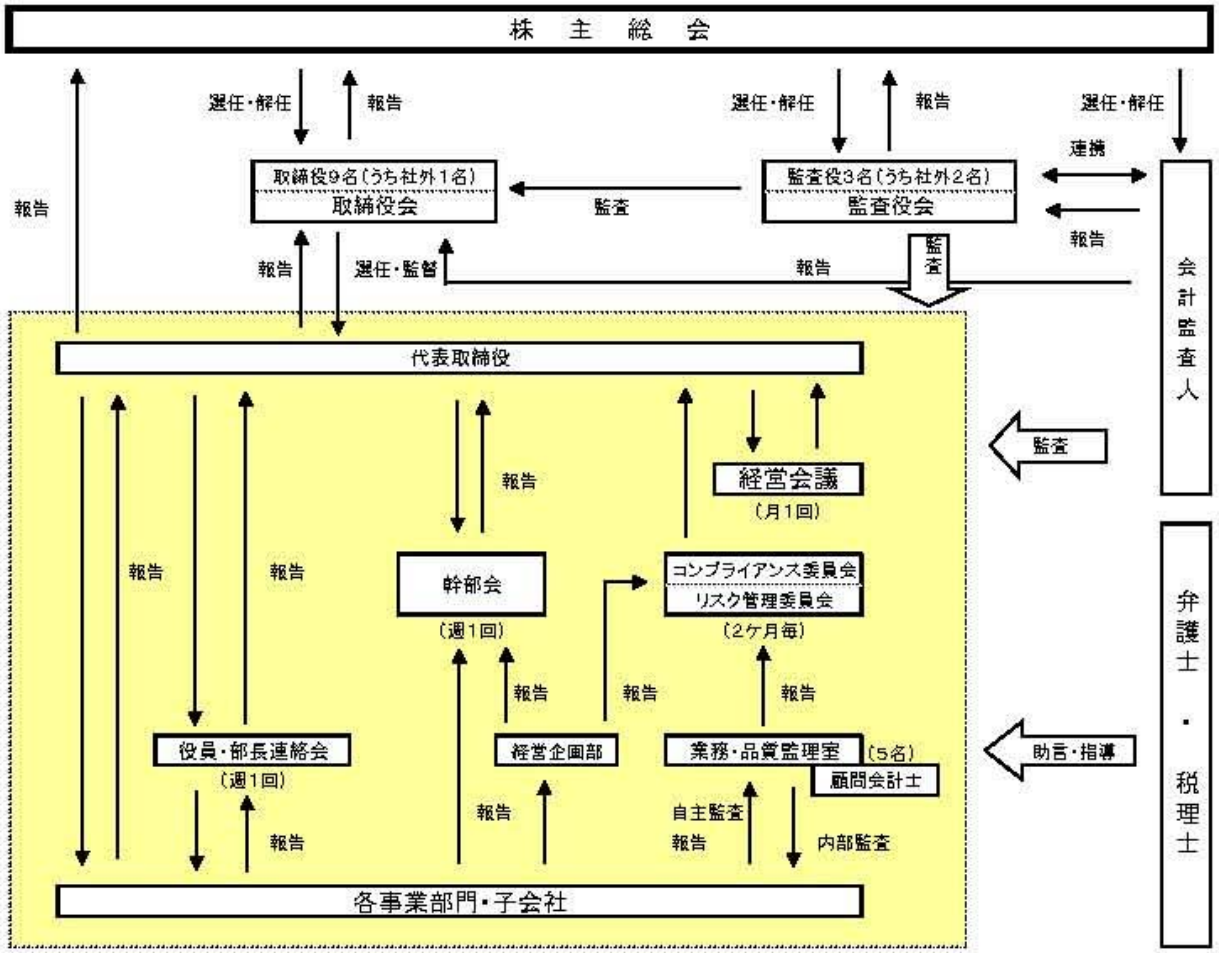
買収防衛策の導入の有無	あり

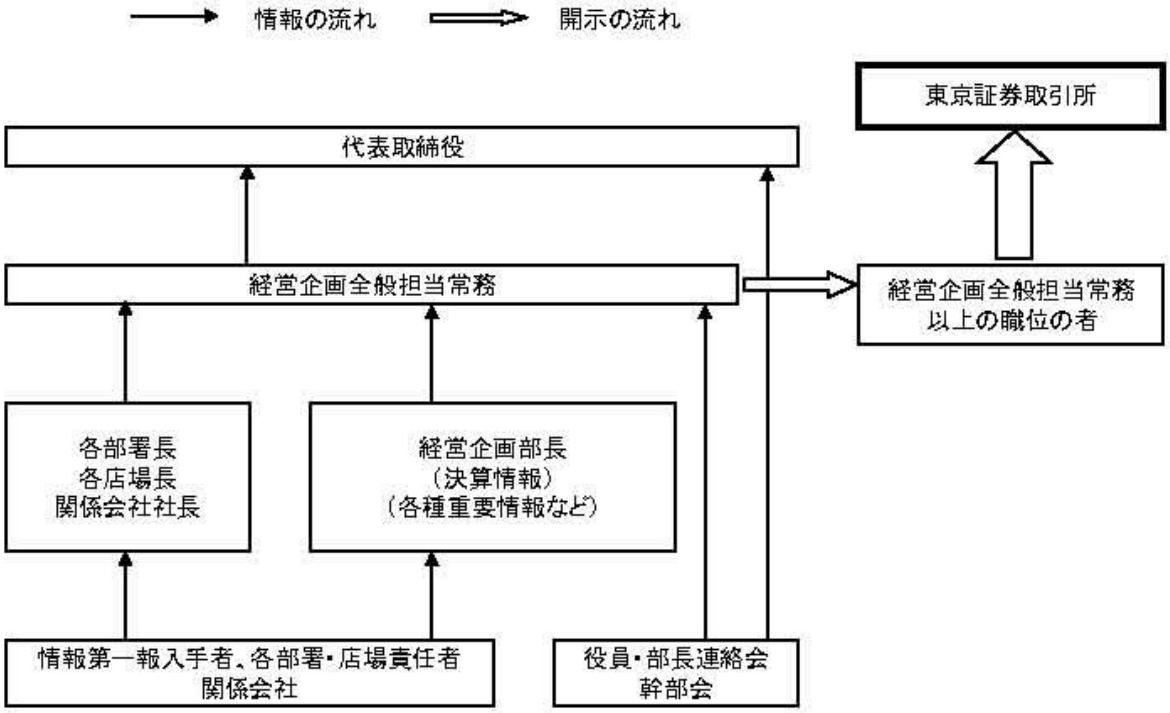
該当項目に関する補足説明 更新

当社は、買収防衛策として「当社株式の大規模買付行為に関する対応方針」について、平成23年3月30日開催の第85期定時株主総会において承認いただいた後、平成26年3月27日開催の第88期定時株主総会において継続承認をいただきました。
詳細につきましては、当社ホームページ（http://www.teisen.co.jp/ir/uploads/20140214-e-news02.pdf）をご参照ください。

2. その他コーポレート・ガバナンス体制等に関する事項

―――


株　主　総　会
選任・解任
報告
選任・解任
報告
選任・解任
連携
報告
取締役9名（うち社外1名）
取締役会
監査
監査役3名（うち社外2名）
監査役会
報告
会計監査人
報告
選任・監督
報告
監査
代表取締役
監査
経営会議
（月1回）
報告
報告
報告
幹部会
（週1回）
コンプライアンス委員会
リスク管理委員会
（2ケ月毎）
弁護士・税理士
報告
報告
報告
報告
役員・部長連絡会
（週1回）
経営企画部
業務・品質監理室
（5名）
顧問会計士
助言・指導
報告
報告
自主監査
報告
内部監査
各事業部門・子会社


情報の流れ
開示の流れ
東京証券取引所
代表取締役
経営企画全般担当常務
経営企画全般担当常務
以上の職位の者
各部署長
各店場長
関係会社社長
経営企画部長
（決算情報）
（各種重要情報など）
情報第一報入手者、各部署・店場責任者
関係会社
役員・部長連絡会
幹部会